

平成 30 年度 第 8 回未来創造セミナー  
「植本祭企画ワークショップ～みんなでつくる植本祭～」実績報告

1. 開催日時：  
平成 30 年 12 月 15 日(土) 14 時 00 分から 16 時 00 分
2. テーマ：  
「植本祭企画ワークショップ～みんなでつくる植本祭～」
3. 話題提供者：  
山内 菜都海 氏(リバブルシティ研究家)  
黒田 晴美 氏 (コーチングオフィス AUBE PROJET 代表)  
  
司会進行：  
伊藤 芳治 氏(立命館大学理工学部4回生)
4. ワークショップ  
自分のまちで、自分のやりたいことを語ってみよう！
5. 開催場所:UDCBK
6. スケジュール  
14 時 00 分から 14 時 05 分 ガイダンス(本日のワークショップの主旨)  
14 時 05 分から 14 時 20 分 アイスブレイク(お気に入りの本紹介、メッセージカード体験)  
14 時 20 分から 14 時 45 分 話題提供 「神戸・東遊園地 URBAN PICNIC の取組紹介」  
14 時 45 分から 15 時 30 分 ワークショップ(ワールドカフェ方式)  
15 時 30 分から 15 時 50 分 内容共有・Q&A タイム  
15 時 50 分から 16 時 00 分 クロージング、3 月の植本祭にむけて
7. 参加人数: 5 名
8. 報告  
企画・司会進行を務めた伊藤氏から、南草津を拠点としてまちライブラリーを実施することの意義や今後の展望および 11 月 17 日(土)に開催した関連セミナーの概要説明をしていただいた。概要は次のとおり。

- お互いの顔が見えること(まちライブラリーとは、本を通じたコミュニティであり、顔の見える関係が大切。)
- やれることからやる(個人の力でやれることからやる、お互いの持てるものを出し合う、無理のない場所と時に小さな規模で行う。)
- 小さなコミュニティ(人と一番繋がりがやすい人数規模は5名程度。)
- 巣箱型本棚(巣箱型の本棚は外に設置することができ、人目につきやすく、通りすがりの人でも気軽に手に取りやすい。)

参加者には、お気に入りの本を1冊持参していただき、自己紹介を兼ねて本紹介をしていただいた。小説や建築・まちづくり関連の本、蝶の生態に関する本など、多様なジャンルの本を紹介し合い、その本についてどのように思ったのかをメッセージカードに書いて「本を通じて繋がる」体験をしていただいた。

その後、山内氏から神戸・東遊園地 URBAN PICNIC での取組を紹介いただいた。概要は次のとおり。

- 東遊園地は神戸の都心に位置しており、この公園を日常的に使えるように URBAN PICNIC を開始した。
- 当初、公園は閑散としていたが、代表の村上豪英さん(東遊園地パークマネジメント社会実験事務局長/H29年度アーバンデザインスクール後期第4回に登壇)が「芝生を植えたら人が集まるのではないかと」提案し自分たちで暫定的な芝生を敷き詰めた。
- 2年目からは、芝生の効果を感じた神戸市が、芝生化の実証実験を開始。
- URBAN PICNIC の立ち上げ時から実施しているアウトドアライブラリーでは、木材に詳しい人がいて、みんなで廃材を利用して本棚やブックエンドを作った。
- そこで、本を通じて人のつながりやテーマの広がりが生まれ、企画スタッフのみではなく、一般公募による「本棚オーナー」も、自分の本棚をもったり、本のプログラムを開催できるようにした。
- 初代の小屋(2015年)は、本棚と同様にDIYで建て、毎年試行錯誤を繰り返しながら作っている。芝生の上に引き出せる本棚があったり、オシャレな小屋を建てたりして、その小屋や本棚の隣のスペースでイベントを開催している。

この URBAN PICNIC に立ち上げから関わっている山内氏から、御自身の経歴や URBAN PICNIC に関わるようになったきっかけ、これまでの経緯をお話しいただいた。

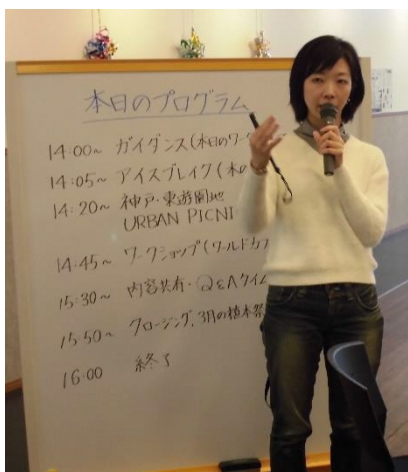
- 大学でアーバンデザインについて学び、今は駅ビルを造ったり、まちづくりに関わっている。
- 東京生まれ、東京育ちだが、4年前に神戸に移住してきた。そこで、神戸モトマチ大学に通いだし、顔見知りができ、URBAN PICNIC の企画に誘われた。
- URBAN PICNIC 初年度から実施しているアウトドアライブラリーは、まちライブラリーの提唱者である磯井純充さんのアドバイスも参考にしながら、企画会議を行い、オリジナルの「本棚オーナー制度」にすることにした。

- 5,000 円／人でオーナーを募集し、最初は本当にオーナーが集まるか不安であったが、オーナーが 10 人いれば 10 種類のテーマの本棚が出来上がり、様々な本棚があつて面白いのではないかと思った。
- 本棚オーナーワークショップを実施し、初めは 2,3 人の参加であったが、その後には 10~20 人に増えていった。その中の一人が黒田晴美さん。
- 本棚オーナーは医師や各分野の研究者など様々。
- なぜ URBAN PICNIC で本を取り上げるようになったかと言うと、本は「私」と「外のもの」を繋いでくれる、また「場」と「私の思い」を繋いでくれる最強のツールだと思い、本を通じてその人の考え方や興味のあることを知ることができると思ったから。また、同じテーマでも、切り口によって様々な捉え方ができて、広がりがあると感じた。
- URBAN PICNIC で小屋の周りに本棚を設置することで、多様な本棚が出来上がり、素通りするだけの公園だった空間が、立ち止まり、そこで過ごし、交流し、そこで輪が広がり、自らが企画するような媒介となった。
- 「消費者からプロデューサーへ」。自らがプロデューサーとなることで、自主プログラムが出来上がり、自分の得意分野を生かせる場となった。(東遊園地と一緒に育てるメンバーも増えた。)

ここで、初年度に本棚オーナーに募集し、現在もアウトドアライブラリーを運営されている黒田氏から、実際に運営している中で感じることなどをお話しいただいた。

- 神戸に生まれ育ち、現在は神戸で仕事をし、子育てをする主婦である。東遊園地は学生時代に遊びに行った思い出の場所であったが、ある時、自分の子どもにとっては、1.17(阪神淡路大震災)の祈りの場所という印象しかないことに衝撃を受けた。
- 同じころに祖母が亡くなり、自分の子どもにとって故郷である神戸を子どもにとって誇れるまちにしたいと思った際に、URBAN PICNIC の本棚オーナー募集を見てそのコンセプトに共感した。
- 自分の好きな本というツールを通して、情報発信と人々が交流する場になり、東遊園地が楽しい思い出の地になることを目指している。
- アウトドアライブラリーでは、不要になった本を置くのではなく、人にオススメしたい本を置く本棚であることを丁寧に説明している。
- 一冊の本がその人を表している。本を並べることで、そこに関わる人が並んでいるような大切な場所である。
- 本棚のテーマを設定している。最初は参加者個人が興味のあるテーマを設定していたが、部会制になってからテーマはみんなで話し合って決めており、多様性を受け入れるようにしている。
- 本を並べているだけでは人の交流は生まれにくい。そこで、交流会を実施した。(12 種類のテーマ)アウトドアライブラリーってなあに？というテーマを設定することで、興味をもってくれた人に丁寧に活動を説明する機会ができた。

- 人が集まる仕掛けとして、アウトドア塗り絵教室やアウトドアカルタをしたり、道路に落書きをしても良いようにチョークを置いたりした。(最後には参加者が落書きを消す作業までして、そのことで自分が関わったという仕掛けづくりをした。)
- これらのことを通して、本を媒介に今まで知っていた人と深く繋がり、知らなかった人と出会えるきっかけとなった。



1. 講演をする山内氏



2. 講演をする黒田氏

お二人の講演後、「自分のまちで、自分のやりたいことを語ってみよう！」をテーマに、2 グループに分けて「南草津駅西口広場をどんな場・空間にしたいか」「どんな交流会があったらいいか」をワールドカフェ方式でワークショップした。それぞれのテーブルに山内氏と黒田氏にファシリテーターとして参加していただき、参加者および UDCBK スタッフと一緒に意見交換を行った。

◇テーブル A「南草津駅西口広場をどんな場・空間にしたいですか？」

- ハード面とソフト面に分類が可能であり、それぞれをさらに分類すると「場の構造を変える」「自然」「夜・安心」「時間の使い方を考える」「交流」「癒し」「趣味・アクティビティ」となった。

「場の構造を変える」:使っている人が周りからよく見える、オープンな場所とたまりやすい場所

「自然」:四季を感じられる、緑がたくさん、昆虫がいっぱい、花畑、ビオトープ

「夜・安心」:夜間は屋台が出る場所、夜も明るく安全に、フェンスを取っ払いたい

「時間の使い方を考える」:ランチタイムに人が集まれる場所、電車やバスの待ち時間に退屈しない

「交流」:大人も子どもも遊べる場所、子どもが走り回れる空間、家に帰る前に立ち寄ると誰かと語れる場所(カフェ)、タープを使ってセミナー

「癒し」:ホッとできる空間、ゆっくりコーヒーが飲める

「趣味・アクティビティ」:音楽・楽器・ダンスの練習ができる、絵を描きたくなる場所、学

生団体の活動の場所、BUKATSUDO、ヨガマット・シューズを置いておけるロッカー

- 同じ場所でも、昼と夜の使い方を考える。
- 駅を起点にして、アクティビティ→交流→癒しという流れを作る。

◇テーブル B「どんな交流会があったらいいですか？」

- 「コミュニティ」「創る」「公園の自然を活用」「公園づくりに参加」「対話」「食」「アート(音楽、写真)」のように分類された。  
「コミュニティ」: アウトドア子ども食堂、みんなで食材を持ち寄ってカレー作り、子守り、昔の西口広場の思い出写真、不要な物の物々交換  
「創る」: 秘密基地をつくる、アクセサリを作る会、お菓子の家、持ち運び道具を作る  
「公園の自然を活用」: 幼虫の食草、昆虫観察会、季節の鳥を見る、雲の流れを見る、ごろごろ寝転ぶ、目を閉じて音だけを感じる会、月光を感じる会  
「公園づくりに参加」: 公園のロゴマーク作り、待ち合わせのゲート作り、巨大アート  
「対話」: 飲みながら語る読書会、マニアな話  
「食」: お弁当(手作りもよし、コンビニもよし)、オススメスイーツ会、コーヒーのおとも  
「アート(音楽、写真)」: お気に入りの音楽を持ち寄る、音楽を聴きながら星を見る会、楽器を持ち寄る、その時その場に集まった人でコンサートをする、写真撮影会、写真を持ち寄ってモザイクアート



3. テーブル A「南草津駅西口広場をどんな場・空間にしたいですか？」のアイデア



4. テーブル B「どんな交流会があったらいいですか？」のアイデア



5.ワークショップの様子

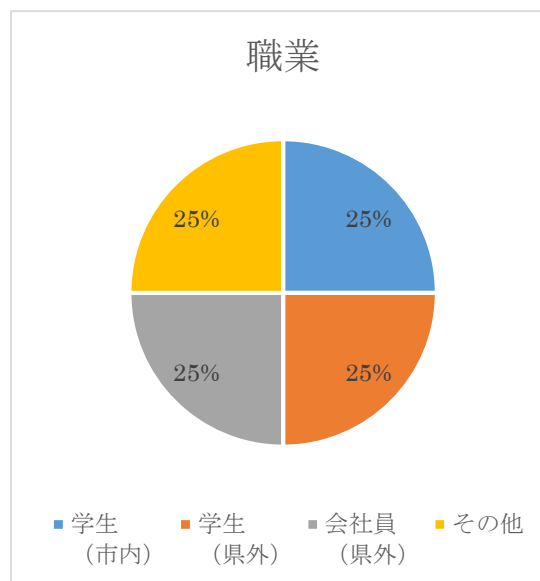
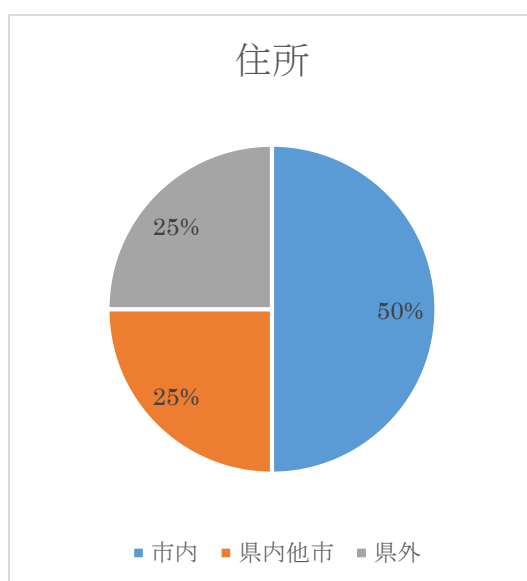
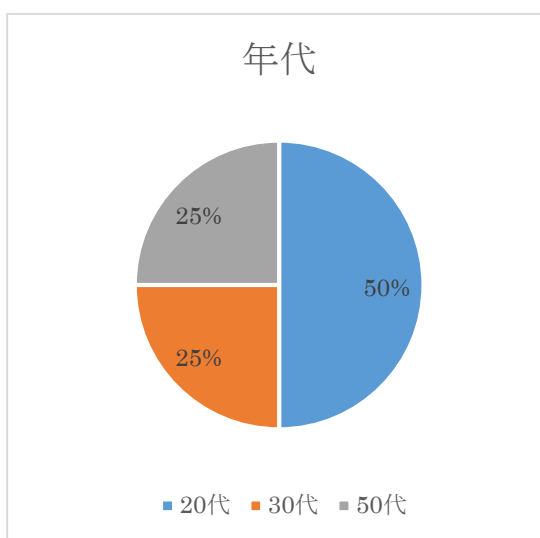
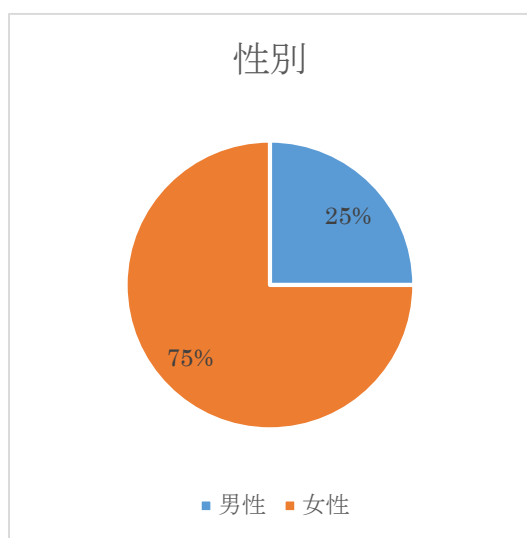
## 9. まとめ

UDCBKのコンセプトの一つに、「地域を知る、互いを知る」があります。東遊園地のアウトドライブライブラリーの取組事例をお聞きし、まさしく本を媒介として今まで知り合うことになった人と繋がる好例だと実感しました。御講演いただいた山内氏と黒田氏は草創期から携わっていることから、当時の苦労話や成功例を体感されており、そのお話を聞くことができたセミナーになったのではないのでしょうか。奇しくも磯井氏のセミナーでお聞きした適正人数である5名の参加者により、南草津駅西口広場という具体的な場所を題材としてワークショップを行うことで、より親密にアイデアの深堀りができたように思います。アイデアの中には、ハード面で整備が必要なものから、捉え方や使い方を変えるだけですぐに実現ができそうなものがあり、まちライブラリーの本と連動させた企画の実現可能性を感じました。そして、日常こそがまちづくりであり、そこに集まる人こそがまちづくりの担い手であることから、まちライブラリーを運営していく人材こそが重要なのですが、今回のセミナーに参加してくださった方の中に、これからのまちライブラリー運営に関わりたいと言ってくださった方がいたことが何よりも収穫だったと思います。また、前回のセミナーにも参加してくださった方が、まちライブラリーの立ち上げから今回のような企画を経て、まちライブラリーが出来上がっていくことにストーリーが生まれ、とても楽しみだと言ってくださいました。さらに、3月に実施予定の植本祭およびそれに向けたミーティングにも参加したいという方もいたことから、今後も継続的かつ自主的にアイデアを一緒に考えていく仕組みづくりを目指していきます。

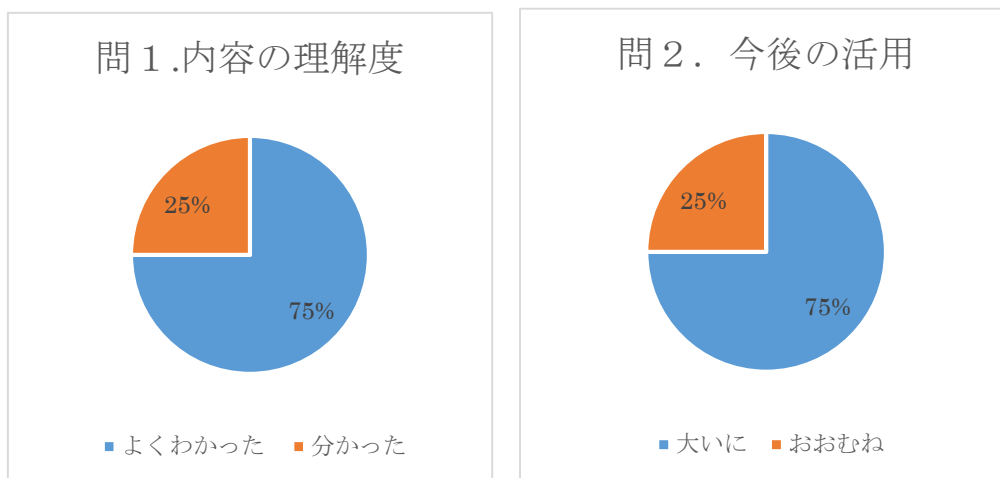
## 10. アンケート結果

参加者 5 名のうち、アンケートに回答していただいた方は 4 名でした。アンケート回答率は 80%です。

### (1) 参加者属性



(2) セミナーの内容について



(3) 内容に関する主な自由回答

- まちライブラリーがどんなものなのか見てみたかった。
- セミナーだけでなく少しずつ実現に向かうことが楽しみ。学生が中心になるプログラムが良い。地元の参加者がもう少し多いとにぎやかになる。
- 若い世代の方が多くて良かったと思います。もっと多くの方に伝えていただくと良いと思いました。
- まちづくりや、市民の方が楽しい事業を考えるためのよいきっかけになり、非常に参考になりました。植本祭とそれに向けたミーティングにもできる限り参加したいです。ありがとうございました。

以上